



- ・令和6年度治山・林道工事コンクール（治山課・森林整備第二課）
- ・国有林野等所在市町村長有志連絡協議会（企画課）
- ・こんにちは森林官です！（天塩森林事務所）
- ・令和6年度北の国・森林づくり技術交流発表会（技術普及課）

林野庁



北海道森林管理局

令和6年度 治山・林道工事コンクール

本コンクールは、国有林野の公益的機能を十全に発揮させ、林業・木材産業の成長産業化の推進などに貢献した治山・林道工事であって、民有林の模範としてふさわしいものを表彰することにより、治山・林道工事における設計、施工の適正化及び技術の向上、関係者の意欲高揚を図るため毎年開催しています。

計画保全部治山課 森林整備部森林整備第二課

令和6年度の治山・林道工事コンクールでは、北海道内の治山工事38件、林道工事37件の中から、林野庁長官賞として治山事業5件、林道事業4件、また、北海道森林管理局長賞として、治山事業5件、林道事業5件の工事が受賞しました。

受賞した工事の中から、ここでは北海道森林管理局長賞を受賞した治山工事、林道工事について1件ずつ紹介します。



2月27日に北海道森林管理局長賞の表彰式を開催しました。
表彰式にあたり挨拶をする受賞者代表の株式会社生駒組 取締役副社長 生駒亮太様（左）と吉村北海道森林管理局長（右）

受賞工事のご紹介

農林水産大臣賞、林野庁長官賞の表彰は林野庁長官室において2月18日に実施されています。工事の概要は林野庁HPをご覧ください。→→



このほかの北海道森林管理局長賞を受賞した工事の概要は報道発表資料をご覧ください。→→



《治山事業 北海道森林管理局長賞》

受賞者：株式会社福田組

工事名：イオニシブ治山工事

受賞理由

この工事は、勇払郡むかわ町穂別^{ほべつにわ}仁和に位置し、不安定土砂及び流木・倒木が堆積している溪流において、これらの流失抑止並びに溪岸浸食の防止を目的にコンクリート床固工を施工した工事です。床固工の床掘、掘削面仕上げなどの施工でレーザーレベルを使用した適切かつ効率的な施工管理、アブ、スズメバチ等の対策として、オニヤンマのフィギュア（生態系の天敵）をヘルメット等に装着した害虫防除、薬剤などを使用しない環境にも配慮した工夫、徹底した安全管理などが高く評価されました。



《林道事業 北海道森林管理局長賞》

受賞者：株式会社堀口組

工事名：ダムの沢林道（林業専用道）新設工事

受賞理由

この工事は、自動追尾式のトータルステーションを使用し、3次元データを元に測量管理を行い、併せてICT建設機械を使用することで、オペレータがキャビン内において設計データ等を確認することにより、現場での細かな調整作業が削減され、作業時間の短縮と作業効率等の向上が図られました。また、地元高校生をインターンシップに受け入れ、将来の建設業界への担い手育成に取り組んだほか、安全対策や環境対策などが高く評価されました。



受賞した各工事は、現地に応じた施工管理等の創意工夫、品質確保、新技術の導入、自然環境への配慮などに努めたことが高評価に繋がりました。

また、林野庁長官賞受賞工事のうち、工程管理・品質管理などの各段階で高い技術力と管理能力が発揮された方について、北海道森林管理局長による主任（監理）技術者表彰を行いました。



【林野庁長官賞】

部門	署名	工事名	会社名
治山	胆振東部森林管理署	樽前山(熊ノ沢)地域防災対策総合治山事業	岩倉建設株式会社
治山	宗谷森林管理署	浜中2治山工事	株式会社中川建設
治山	網走西部森林管理署	17号の沢治山工事	大同産業開発株式会社
治山	十勝東部森林管理署	オネトップ治山工事	イチエイ山田建設株式会社
治山	渡島森林管理署	二股川(549林班の沢)治山工事	株式会社石井組
林道	石狩森林管理署	岩渕山林道(林業専用道)新設工事	岸本産業株式会社
林道	上川中部森林管理署	層雲峡本流林道災害復旧工事	株式会社橋本川島コーポレーション
林道	十勝西部森林管理署	パンケナイ林道災害復旧工事	徳井建設工業株式会社
林道	渡島森林管理署	貝取澗（かいとりま）林道災害復旧工事	株式会社工藤組

【北海道森林管理局長賞】

部門	署名	工事名	会社名
治山	胆振東部森林管理署	イオニシブ沢治山工事	株式会社福田組
治山	上川中部森林管理署	十勝岳治山工事その2	株式会社生駒組
治山	西紋別支署	紋別海岸防潮治山工事	株式会社菊地組
治山	東大雪支署	ベンケオタソイ川治山工事	植村土建株式会社
治山	檜山森林管理署	よびたらし治山工事	株式会社杉沢組
林道	日高北部森林管理署	パンケヌシ林道災害復旧工事	株式会社中山組
林道	留萌南部森林管理署	ダムの沢林道（林業専用道）新設工事	株式会社堀口組
林道	網走中部森林管理署	浜影林道3の沢線改良工事	佐藤林業株式会社
林道	根釧東部森林管理署	虹別（にじべつ）第5支線林道（林業専用道）新設工事	東星渡部建設株式会社
林道	後志森林管理署	コベチャナイ林道（林業専用道）新設工事	渡辺建設株式会社

【北海道森林管理局長賞 主任（監理）技術者表彰】

部門	署名	工事名	受賞者
治山	胆振東部森林管理署	樽前山(熊ノ沢)地域防災対策総合治山事業	岩倉建設株式会社 村上 広樹
治山	網走西部森林管理署	17号の沢治山工事	大同産業開発株式会社 横田 晋
治山	十勝東部森林管理署	オネトップ治山工事	イチエイ山田建設株式会社 吉本 守
治山	渡島森林管理署	二股川（549林班の沢）治山工事	株式会社石井組 海野 忠嗣
林道	石狩森林管理署	岩渕山林道(林業専用道)新設工事	岸本産業株式会社 鳴海 高志
林道	上川中部森林管理署	層雲峡本流林道災害復旧工事	株式会社橋本川島コーポレーション 長谷川 潤
林道	渡島森林管理署	貝取澗（かいとりま）林道災害復旧工事	株式会社工藤組 酒谷 巧

【北海道森林管理局長賞 監督職員表彰】

部門	署名	工事名	受賞者
治山	胆振東部森林管理署	樽前山(熊ノ沢)地域防災対策総合治山事業	農林水産技官 浅野 誠一郎
治山	宗谷森林管理署	浜中2治山工事	農林水産技官 浅野 勇哉
治山	網走西部森林管理署	17号の沢治山工事	農林水産技官 村田 翼
治山	十勝東部森林管理署	オネトップ治山工事	農林水産技官 倉本 祐輔
林道	石狩森林管理署	岩渕山林道(林業専用道)新設工事	農林水産技官 山本 剛
林道	上川中部森林管理署	層雲峡本流林道災害復旧工事	農林水産技官 藤本 拓
林道	十勝西部森林管理署	パンケナイ林道災害復旧工事	農林水産技官 荒 一博
林道	渡島森林管理署	貝取澗（かいとりま）林道災害復旧工事	農林水産技官 鈴木 隆美

地域に貢献できる国有林野事業の実施に向けて

総務企画部 企画課

【はじめに】

北海道森林管理局が所管する国有林野は、全道面積の4割弱を占め（北方領土を除く）、地元農山漁村の社会経済と密接に結びついています。

このため、国有林野の管理経営に当たり、地域社会との意思の疎通を図ることで、地域社会の要請等を反映できるよう、森林管理署長等と国有林が所在する市町村の長で構成される協議会を設置しています。

今年度の協議会は、全道を8地区に分け、昨年10月から12月にかけて地域の発展という視点で協議を行いました。

【国有林野等所在市町村長有志連絡協議会】

北海道森林管理局全体の事業への反映に向け、前述の各地区の協議会で座長を担っていただいている代表の市町村長（以下、「代表世話人」という）と北海道森林管理局長等で構成する国有林野等所在市町村長有志連絡協議会（以下、「連絡協議会」という）を毎年開催しています。

今年度の連絡協議会は、馬場赤井川村長、遠藤平取町長、田中占冠村長、吉田天塩町長、南浜頓別町長、佐々木遠軽町長、徳永弟子屈町長、木村岩内町長にご出席いただくとともに、林野庁から、石田経営企画課長、本橋首席森林計画官等を招き、1月28日に開催しました。

冒頭、吉村局長、石田課長から挨拶を述べるとともに、連絡協議会の代表世話人に選出された徳永町長から挨拶をいただきました。

徳永町長は、能登半島地震や北海道胆振東部地震に触れ、災害対応に当たっては、国と市町村の連携が重要であり、本連絡協議会も連携の一つとしての役割があること、森林資源を活用した地域の振興や安全・安心の確保、森林整備の推進には国有林を含めた関係者との連携が必要であること



挨拶をする徳永弟子屈町長（左）と、吉村北海道森林管理局長（右）

などについて発言されました。

議事では、林野庁本庁から、森林経営管理制度及び森林環境譲与税、木材利用の推進、J-クレジット制度の活用について説明しました。

また、北海道森林管理局から、エゾシカ被害対策、ナラ枯れ被害対策等への取組状況について情報提供を行うとともに、各地区で開催された協議会の内容報告を行い、意見交換をしました。

意見交換では、①全道的な問題となっているエゾシカ被害対策に向けて、国有林でも捕獲頭数を増やす取組の推進が必要であること、②広葉樹材の安定供給等のため、天然林（育成複層林）の面積を将来的に増やしていく必要性について確認しました。また、地域の実状として、木材加工工場がなく輸送コストがかかることや人材確保に苦慮しているといった報告があり、これらを受け、林野庁からは支援できる取組の紹介や今後も引き続き課題解決に向けて努めたいと締めくくりました。

【おわりに】

地域に密接に結びつく国有林として、このような場や普段の業務において、いただいた意見を適切に業務に反映することにより、地域に貢献できる取組に一層努めてまいります。



こんにちは 森林官です！

留萌北部森林管理署 天塩森林事務所
首席森林官 大平 智（写真左から2番目）



【管内の概要】

天塩森林事務所は、北海道の留萌振興局管内の北部に位置する天塩町の市街地にあり、約 10,666 ヘクタールの国有林を管理しています。管轄面積のうち、約 563 ヘクタールが防風保安林に指定されていて、海岸特有の強風地でもあります。



【天塩町の特徴】

天塩町は、酪農が盛んで、ピーク時には町内で飼育される乳牛は約 1 万数千頭を数え、年間約 5 万トンの生乳を生産していました。このため豊富な牛乳を活かした特産品が沢山あります。

また、北海道第 2 位の長さで北海道遺産にも選定されている大河「天塩川」の河口は、シジミにとって最適な生育環境となっており、大ぶりのヤマトシジミの産地としても有名です。

【天塩森林事務所について】

管轄内の天塩川下流の防風保安林内には、「川口遺跡風景林」があり、約 3,000 年前の縄文時代に先住民が竪穴住居を建て集落を形成した遺跡があることから、当該地の国有林を天塩町に貸付しています。遺跡の保存や天塩町の観光資源の一つとして復元整備され、一般公開されております。



森林施業については、平成 13 年に間伐推進路網整備モデル林が設定され、間伐の推進や流域全体の作業路網の充実を目的とした森林作業道等の配置・規格の工夫、高性能林業機械の活用などによる効率的な事業実施に取組、低コスト化の推進を図っています。

今後も、機能類型に応じたきめ細かな森林施業を心掛け、山づくりを行っていくことが必要と感じています。



【最後に】

昨年 4 月に遠別森林事務所と併せ、天塩森林事務所も担当することになりました。現場業務の重要性を認識しながら、今後も業務を遂行していきたいと思っております。

令和6年度 北の国・森林づくり技術交流発表会

「令和6年度 北の国・森林づくり技術交流発表会」を令和7年2月18日・19日の2日間に渡って北海道大学学術交流館で開催しました。

この発表会は、森林・林業・木材産業の発展に寄与するため、平成17年から20年に渡り開催しているものです。

今年度は、森林管理署、北海道、大学、高校からの発表がありました。

口頭発表は、「森林技術部門」で8課題、「森林保全・ふれあい・地域連携部門」は6課題、「高等学校部門」は3課題、また、ポスター発表は28課題でした。

このほか、森林総合研究所北海道支所、林木育種センター北海道育種場、北海道立総合研究機構林業試験場、北海道森林管理局森林技術・支援センターから特別発表がありました。

また、特別講演として、森林総合研究所北海道支所の石橋氏より「北海道国有林における今後の択伐天然更新施業について」と題する講演をいた

しました。

審査の結果、口頭発表の各部門から1課題ずつ最優秀賞が選ばれたほか、優秀賞4課題、奨励賞3課題を選定し、表彰を行いました。

審査委員長の森林総合研究所北海道支所の齊藤支所長から、「賞を得るだけが目的ではなく、発表を通していろいろな情報を交換して技術交流することが大事なことで、いろいろな人との接点ができる場になればと思う。今後も森林、林業に係わる方々がお互いに交流できる発表会になることを期待します。」と講評がありました。



★局長賞（最優秀賞）

【森林技術部門】

LiDAR 搭載 UAV による安全な事業計画策定及び実行について

（大澤木材株式会社 野上一平

根釧西部森林管理署 見付亜那、三田武）

林内での事業実行前の人力踏査には時間がかかり、ヒグマによる労働災害の発生もあったことから、これに代わる手法として、LiDAR搭載UAVとGISを活用した安全で効率的な事前調査について検証した。



【森林保全・ふれあい・地域連携部門】

広報活動による相互利益の実現に向けて

～職員有志による広報ワーキングチームの挑戦～

（北海道森林管理局広報ワーキングチーム 渡邊大地、阿部達矢）

北海道国有林とその森林づくりのプレゼンス向上に向け、職員から公募した「広報ワーキングチーム」による林業PR動画の製作、地域・企業・学校等とのタイアップ企画など「情報をデザインし発信する」取組を紹介した。



【高等学校部門】

スマート林業技術を学び、

カラマツ人工林の林齢構成の平準化に挑戦

(帯広農業高等学校 村山奨、久田なつみ、川上雄誠、
相馬世実、安斎美星)

本校学校林ではカラマツ人工林の林齢構成の平準化が課題となっており、スマート林業を学びながら課題解決することを目指して、応募した林野庁のスマート林業教育推進事業の実践経過について報告した。



★局長賞（優秀賞）

【森林技術部門】

マルチスペクトルカメラ搭載型 UAV を用いた

北方針葉樹の樹種判別への試み

(東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林

大島章生、福士憲司、犬飼浩、高津勇佑、岸本光樹)

農業分野では、作物の生育状況を数値化するためにマルチスペクトル画像が用いられてきており、この技術を林業へ応用し、樹種ごとの光の反射特性の違いを利用して樹種判別ができないか検討した。



【森林保全・ふれあい・地域連携部門】

シマフクロウの棲む森づくり～保護管理～

(十勝東部森林管理署 黒岩竜大、水谷天哉)

かつて北海道に広く生息していたシマフクロウは極めて少なくなっており、保護管理が必要な状況である。当署で実施した給餌池の設置など保護管理に関する取組を振り返るとともに、今後の展望について検討した。



【高等学校部門】

岩農版持続可能な森林経営を目指して

～トドマツ林伐採後の森づくりを考える～

(岩見沢農業高等学校 市村陽輝、中松誠仁、樋口冬輝弥)

本校演習林の人工林の大半が11齢級以上のトドマツであり、更新時期を迎えている。林床の稚樹調査や10年前に巻き枯らし間伐を行った林分の現状などから、トドマツ林伐採後の森づくりのあり方を検討した。



【高等学校部門】

木づかいできていますか？

作って広める木の魅力発信プロジェクト～2024～

(旭川農業高等学校 青木陽、青柳漣、菊川冬惺、
土谷紀裕、山本楓華、吉川直文)

実習や旭川の木材産業から発生する未利用部材を材料に、身近に利用できる木製製品の開発と木の魅力を伝えることを目的に木工体験活動を行い、「普段から気軽にできる木づかい」の普及を目指して活動した。



★奨励賞

【森林技術部門】

造林作業の軽労化に向けて

～クリーンラーチコンテナ苗で下刈省略～

(十勝西部森林管理署東大雪支署 森川周、鈴木啓之)

増加する主伐箇所の再造林において課題となっている下刈作業の省力化について、当支署が実施したクリーンラーチコンテナ苗の植栽による下刈作業の省略化事例を報告した。



【森林技術部門】

地上 LiDAR 導入による脱輪尺化と省力化の試み

(東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 及川希)

木の太さを測るときに使用する輪尺を、地上LiDARに置き換えたらどうなるのか。森林の資源量調査において、地上LiDARが輪尺の代替となるか実証試験を行い、計測精度や省力化の可能性を検証した。



【森林保全・ふれあい・地域連携部門】

「過酷な作業」を改善してみませんか

～下刈り作業の機械化を民有林に普及する取組～

(上川北部森林管理署 山内龍輔、梅本優輝)

町有林での現地検討会とその後の意見交換会において、国有林等の先行事例や作業軽減の見える化等、様々な視点で機械下刈りによる軽労化を進めるための課題解消と民有林への普及に向けての取組みを報告した。



特別発表

1. 天然更新カンバ類の効果的保育手法の確立

北海道森林管理局森林技術・支援センター 谷村亮

天然更新により発生したカンバ類を健全な森林に誘導するとともに、木材資源として安定供給するため、更新初期に行う効果的・実用的な刈払い作業の技術開発に取り組んだ試験経過について報告。

2. これまで家具材に使われてこなかった樹種を家具材として利用するための取り組み

森林総合研究所北海道支所 天野智将

令和4年より、ホオノキ、ハンノキなどこれまで家具としてはあまり使われてこなかった樹種を家具に使ってもらえるよう、材質や塗装・接着などの加工について研究してきた成果を報告。

3. 北海道育種場における林木遺伝子銀行110番の取り組み

林木育種センター北海道育種場 岩井大岳

林木ジーンバンク事業の一環である「林木遺伝子銀行110番」では、林木遺伝資源として価値のある巨樹・名木等についてクローン苗木を増殖し、里帰りを行ってきたことから、この取り組みについて紹介。

4. 保持林業の効果と課題：実証実験10年間の成果から

道総研 森林研究本部 林業試験場 明石信廣

森林総合研究所北海道支所、北海道大学農学部、北海道水産林務部道有林課とともに2013年から行ってきた大規模実証実験において明らかになった保持林業の効果や今後の課題等について解説。

北海道国有林における今後の択伐天然更新施業について

(国研) 森林研究・整備機構

森林総合研究所北海道支所 石橋 聡 氏

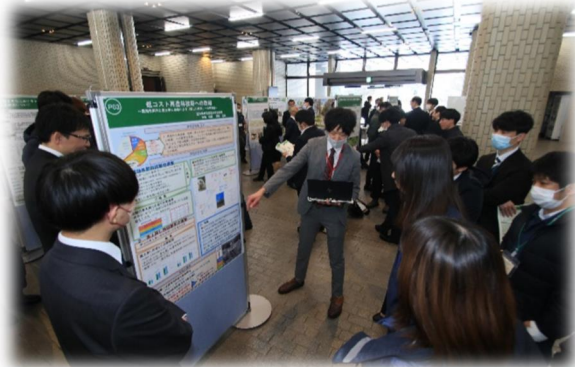
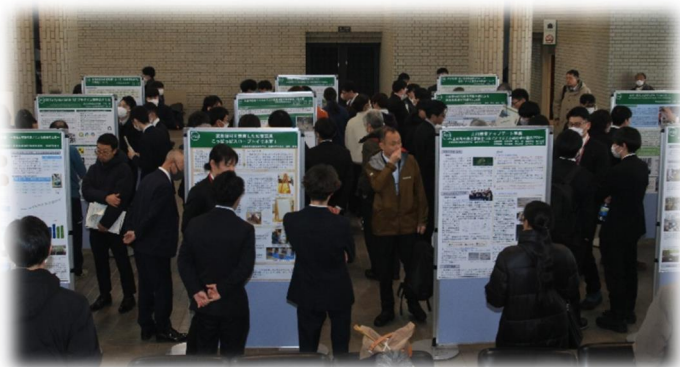


これまで北海道国有林で行われてきた天然林択伐施業は、保続という観点からは決してうまく行ったとは言えない。その原因は、収穫量確保のために中径木（DBH34cm未満）まで及んだ良木選木（抜き伐り）により将来の伐採木がなくなったこと、伐採後に必要な更新を確保しなかったためにササの密生によって天然更新が不良となったこと、大型機械（ブルドーザ等）を使用した伐採作業により小径木の損壊・損傷が発生して後継樹がなくなったことなどが考えられる。そのため、択伐施業法の改善策として、北海道の針広混交林は樹群によって構成されており、樹群（木のまとまり）が更新単位となっていることから「①北海道の針広混交林の樹群を単位とした更新動態に則る」こと、多様な上木樹種の種子を活用して天然更新させるために、多様な光環境、地表状況を作り出す新たな地表処理方法を導入するなど「②低コストな天然更新補助作業により多様な樹種の確実な更新を図る」こと、CTLシステム（フォワーダ使用）を前提として大型機械が森林作業道と伐採面以外を走行しないようにして「③大型林業機械の使用による損壊木、損傷木を発生させない」ことの3つのポイントが重要である。それらに加え、施業方法や単木択伐の選木は難しいことから『施業担当者へのわかりやすさ』や、作業自体は請負業者が実行することから『作業実行者の技能レベルに左右されない』ことを考慮する必要がある。

それらを踏まえた施業法が樹群択伐天然更新施業法であり、具体的には、伐採は0.04ha程度の大きさを基本とする立木のまとまり（樹群）を単位として、伐採後は大型機械を活用して小面積樹冠下地がき（樹群の伐採跡で400㎡程度の小面積地がきを行う）と人工根返し（伐採後の伐根を大型機械で人工的にひっくり返す）を行うことで、地表のササの除去と土壌の攪乱により多様な樹種の天然更新を確保する（天然更新により次代の樹群をつくる）施業方法である。天然更新は不確実性が大きいため、様々な条件下で実施して事例を積み上げ改良し、施業技術として確立する必要があるが、まずはこの施業方法を質的量的に林分内容が低下した伐採跡地（育成天然林）の林相改良を目的として導入し、この施業法の導入と併せて施業団地（小流域）単位での持続可能性の実現を目指していくことが重要であると考え。

ポスター発表

ポスターについても2日間ロビーに展示し、コアタイムを設けたところ、各ポスターの説明者へ来場した皆様から熱心に質問する様子が多く見られました。



各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

白老町とアイヌ共用 林野設定契約を締結



【胆振東部森林管理署】

2月25日に、白老町役場において、白老アイヌ協会理事長同席のもと、白老町と当署によるアイヌ共用林野契約締結式を行いました。本契約は、「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」をもとに、白老町の国有林の約3,500ヘクタールを共用林野として設定し、区域内において、アイヌ儀式で使用する祭具（イナウ、パスイ）の材料として必要な林産物の採取を可能とするものです。



ストックヤードで 広葉樹の販売



【上川北部森林管理署】

2月26日に、上川北部森林管理署入札室において、下川町と当署による広葉樹の販売を実施しました。両者間では、原木の安定供給や効率的な原木輸送に資することを目的に、共同で使用する原木ストックヤードを整備してきています。当日の入札場所は、ストックヤードの予定でしたが、悪天候のため場所を移しての開催。下川町は「せり売り」、当署は「一般競争入札」と販売方法は異なったものの、盛況のうち全件落札されました。

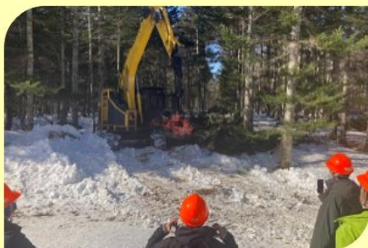


北海道教育大学釧路校 の学生を対象とした 現地検討会等に参加



【根釧西部森林管理署】

2月28日に、エステー(株)、(株)北都及び北海道釧路総合振興局による包括連携協定に係る取組として、北海道教育大学釧路校の学生を対象とした現地見学会等が開催されました。本協定は、「トドマツの利用促進・知名度向上」、「森林の大切さの理解向上」等に関する事業を協働で実施し、地域を活性化するため締結されたものです。当署はオブザーバーとして協力しており、今回は森林技術指導官、地域林政調整官等が参加しました。



上士幌町立上士幌小 学校にて出前授業を 開催



【十勝西部森林管理署東大雪支署】

1月22日に、上士幌町立上士幌小学校5年生39名を対象に、SDGs目標15「陸の豊かさを守ろう」をテーマとした出前授業を開催しました。上士幌町では、SDGsに関わる各団体による出前授業を毎年開催しており、当支署も昨年度より上士幌町役場からの要請を受けて協力しています。当日は、クイズを交えながら森林の手入れ（保育間伐など）や森林資源の循環利用の大切さについて説明をしました。



広報 「北の森林 国有林」 3月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



【今月の表紙 摩周岳・摩周湖】

今月は、摩周岳と摩周湖の冬の風景写真を表紙にしました。

冬に霧がかかることは稀です。青く澄んだ摩周湖をご覧になるのなら、寒い時期に訪れてはいかがでしょうか。



今月の表紙